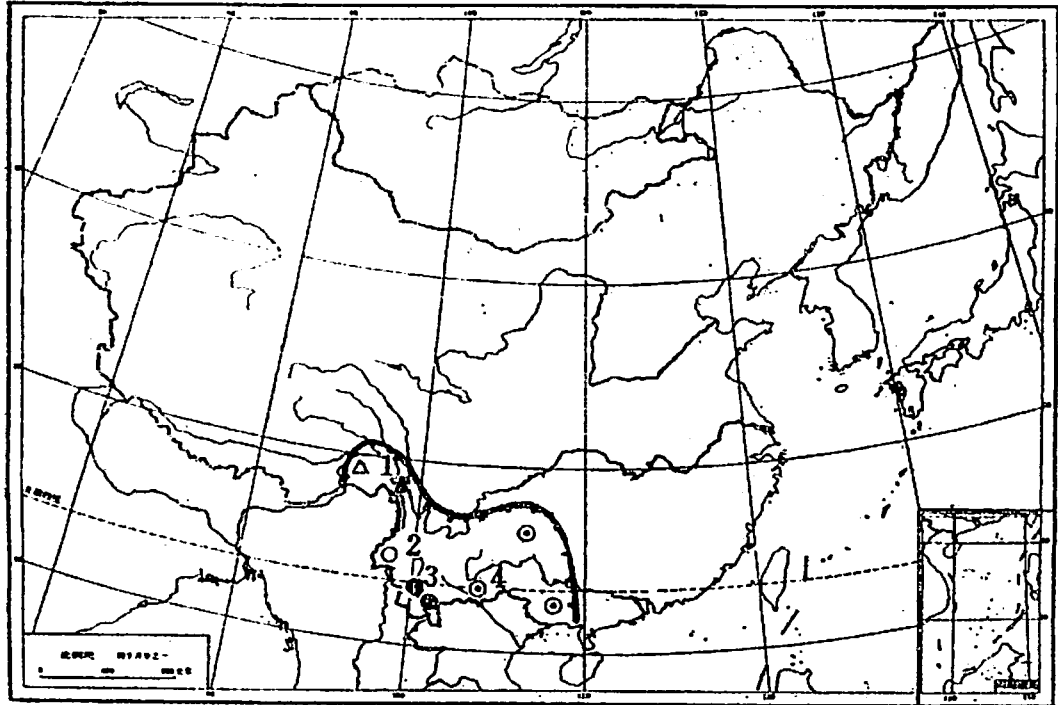


110/59

XIV. ソウシチョウ属 (相思鳥属) *Leiothrix* Swainson, 1831

**形態** 嘴は太くて頑丈、長さは頭の半分ほど、嘴峰はやや湾曲している。鼻孔は羽毛に覆われていない。翼長は尾長より長い。尾は先端が平らか、あるいは楔状であるものと、外側の尾羽が長く、先端がM状のものがある。上尾筒は比較的長い(上述の特徴は人によってヤブドリ属と分けることがある、詳細は分類欄を参照)。跗蹠は細く長い。雌雄に多少の違いがある。

**地理的分布** 本属は典型的な東洋界の鳥類で、国内の分布も広く、西はチベット東南部より、東は沿海部各地方まで、北は甘肅省、陝西省等の南部、南は雲南省、広西省、広東省に至る。国外ではインド、ネパール、シッキム、ブータン、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナム、マレーシアのクアラルンプール、およびインドネシアのスマトラ西部山地などで見られる。



分布図 50 ゴシキソウシチョウ *Leiothrix argentauris*

1. *L. a. vernavi* △ 2. *L. a. argentauris* ○ 3. *L. a. ricketti* ● 4. *L. a. rubrogularis* ⊙

表5 ヤブドリ属とソウシチョウ属の比較

属名	ヤブドリ属 <i>Liocichla</i>	ソウシチョウ属 <i>Leiothrix</i>
1	尾長が翼長より長い(12♀♂)	翼長が尾長より長い(20♀♂)
2	上尾筒正常、長さ中(尾長の約 1/3)	上尾筒がより長い(尾長の 1/2 或はそれより長い)
3	下尾筒2色	下尾筒単色
4	尾羽の先端の色が異なる	尾羽の先端は異色でない、平型又はM型
5	雌雄が似ている。	雌雄がやや異なる。

**分類討論** 本属とヤブドリ属(菽鵲属)とは特徴が比較的似ており、嘴が頑丈で長さが頭の約

半分で、嘴峰の湾曲、鼻孔が羽毛で覆われず裸出していること等。しかし、異なる特徴もある(表5参照)。

ソウシチョウ属 *Leiothrix* 分類検索

頭頂黒色、耳羽銀灰色、尾の先端円状、外側の尾羽は外へ曲がっていない、上尾筒朱赤色で短く、それと、尾の先端までの長さは附蹠の長さを超える。……………ゴシキソウシチョウ  
 頭頂緑褐色、耳羽浅い灰色、尾の先端M状、尾羽の外側は外側へ湾曲、上尾筒は背部と同色で長く、長さは附蹠にみえない。……………ソウシチョウ

*Leiothrix* Swainson, 1831-32, Faun. Bor.-Amer. 2:233, 490. サンプル種: *Parus furcatus* Temminck = *Sylvia lutea* Scopli.

*Mesia* Hodgson, 1837, Ind. Rev. 2(1838):34. サンプル種 *Mesia argentea* Hodgson.

参照: Baker, 1922, 1: 327-329, 353-355; Yen, 1934, Ois: 41-42; Deignan (in Mayr et Paynter), 1964, 10:3841-384; Ali et Ripley, 1972, 7:64-69; 鄭作新, 1976, 656-658; 中国科学院昆明動物研究所, 1980, 191-192; 鄭作新等, 1983, 247-249; de Schauensee, 1984, 383-384.

66. ゴシキソウシチョウ *Leiothrix argentea* (Hodgson 銀耳相思鳥)

英名: Silver-eared *Leiothrix*

地理的分布 チベット東南部から雲南省の西部、南部、東部、および広西省の西南部など、我が国のわずかな地域に分布する。国外ではインド、ネパール、シッキム、バングラデシュ、ミャンマー、ラオス、ベトナム、インドネシアのスマトラ西部山地等で見られる。

識別特徴 頭頂は黒色、耳羽は銀白色、翼には明らかな朱赤色の翼斑があり、上尾筒および下尾筒も同様の同色、雌雄はわずかに異なる。

形態(雲南亜種の標本による)雄の成鳥。前額が橙黄色、頭頂、目先と頬が黒色、耳羽は銀灰色、頸部と前額も同色、体上面はオリーブ緑色、翼の雨覆と背面とは同色、風切羽は暗褐色、最も内側の次列風切のほかを除く他の羽の外弁羽縁の基部は朱黄色、先端部分は橙黄色で鮮明な翼斑を構成している。初列風切第1, 2羽の2枚は外側の基部が朱赤色になっていない。尾羽は暗灰褐色、中央の1対を除く他の外弁羽縁は橙黄色、上尾筒は翼斑と同色、頬、喉胸部は濃い黄色、喉側面および上胸部は赤色を帯びている。腹部はオリーブ黄色、両脇はオリーブ緑色、下尾筒は上尾筒と同色であるが、やや淡い。

雌成鳥。羽色は雄と似ているが、上尾筒がオリーブ褐色、下尾筒は黄褐色、胸、腹は黄色を帯びた灰色。

虹彩赤褐色あるいは褐色、嘴は橙黄色、附蹠と足指は肌色を帯びた黄色。

各部位の測定

性別	体重 g	全長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	附蹠 mm
♂(8)	23~29	160~175	11~14	73~80	64~70	24~28
♀(4)	23~26	157~165	12~13	72~79	68~70	25~27

分類考察 Hodgson(1837), Baker(1922), La Touche(1923), Mayr et Greenway(1938)等の人々は何と、ゴシキソウシチョウ(*L. argentea*)を単独に *Mesia* 属とした。Salvadori(1879), Ripley(1948)等はみなゴシキソウシチョウをソウシチョウ属とした。両種の外形がよく似ていることによる、例えば嘴峰の湾曲、嘴の長さが頭の約半分であること、鼻孔が羽毛で覆われていないこと、翼長:尾長比等の特徴が似ており、両種を同一の属とするに充分と考えられる。

亜種分化 本種には10亜種がある。すでに文献に記載されている我が国に分布するものは4

亜種で、検索は次のとおり。

亜種検索

- 1. 喉部黄色，ならびに赤褐色の縦紋 ..... 西雲南亜種 *L. a. vernayi*  
 喉に縦紋がない ..... 2
- 2. 胸部朱赤色 ..... 3  
 胸部に赤色のみ ..... 4
- 3. 喉と喉側および上胸が朱赤色 ..... 西南亜種 *L. a. rubrogularis*
- 4. 喉部黄色，喉側朱赤色あるいは黄色 ..... 南雲南亜種 *L. a. ricketti*  
 喉と胸部淡い帯金色橙黄色 (Ali 等, 1972 による) ..... 基亜種 *L. a. argentaureis*

訳注；原文中滇西亞種とある，滇とは雲南の旧称。

何紀昌等 (1980) により雲南省<sup>フナ</sup>勐海，西盟から採取された標本を鑑定した基亜種によるが，我々が同一地域で採取した標本では，そのうちに喉側が赤色で喉および上胸が純黄色でないものを発見し，これにより基亜種 *L. a. argentaureis* は我が国では見られないと考えたが，なお疑問が残る。

(1) 西雲南亜種 *Leiothrix argentaureis vernayi* (Mayr et Greenway)

この亜種はチベット東南部<sup>チベット</sup>墨脱，察隅等の地域，雲南西北部<sup>雲南</sup>貢山一帯で見られ，国外ではミャンマー北部に分布する。

頸部は淡いオリーブ黄色，しかし金橙色の光沢はない。喉は赤色ではないが，赤褐色の縦紋がある。

各部位の測定

性別	体重 g	全長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm
♂(7)	23~28	153~180	14~16	70~74	69~72	24~26
♀(5)	22~27	140~168	13~15	68~72	68~71	23~25

分類考察 人により雲南西部から南部において採取された標本をもって基亜種とする。(我が国には基亜種は分布しない。南雲南亜種の分類考察を参照)。本亜種と南雲南亜種はよく似ている，そのうえ，喉の黄色が赤色を帯びない個体はさらに似ている。本亜種の喉部の赤褐色縦紋は個体によってはかすかに見えるため，多くの人は見落としやすく，したがって，喉部の特徴は基亜種の特徴ときわめて類似している。

本亜種の分布はチベット東南部の墨脱から察隅等の地域を経て，雲南省西北部の貢山，普拉，巴坡，西南部の盈江，潞西，三合山，永徳，淪源，双江，臨淪等の地域で，双江と淪源は本亜種の分布域南限である。

*Mesia argentaureis vernayi* Mayr et Greenway, 1938, Proc. New Engl. Zool. Cl. 17:3 ((標本採集地：ミャンマー Patkai Hills).

*Leiothrix argentaureis gertrudis* Ripley, 1948, Proc. Biol. Soc. Washington 61: 103 ((標本採集地：チベット米什米山).

(2) 南雲南亜種 *Leiothrix argentaureis ricketti* (La Touche)

雲南省南部の思茅および西双版纳地域で見られ，国外ではラオス北部とベトナム北部に分布する。

喉部黄色，喉側朱赤色，個体によって不鮮明なものもある。雄の標本によるとほとんどが赤色であり，喉部の純黄色である基亜種に甚だ似ている。

各部のサイズは前項と同じ。

*Mesia argentauris ricketti* La Touche, 1923, Bull. Orn. 43:178 ((標本採集地 雲南省思茅)

(3) 西南亜種 *Leiothrix argentauris ruborularis* (Kinnear)

雲南省東南部の金平、富寧から西へ広西省の南部で見られ、国外ではベトナムに分布する。

各部位の測定

性別	体重 g	全長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm
♂(10)	24~28	150~178	11~15	69~77	66~73	24~26
♀(8)	25~28	105~170	12~14	68~74	65~72	24~26

分類考察 Deignan (in Mayr et Paynter, 1964) は本亜種を *Leiothrix argentauris ricketti* の同物異名とした。しかし、本亜種の体上面の灰色が比較的顕著で、喉部が朱赤色である。しかも、*L. a. ricketti* の雨覆と背部のオリーブ緑色はともに黄色を帯びる。喉の黄色、喉側の朱赤色、腹部のオリーブ黄色。これらの特徴は本亜種と明らかに異り、故に *L. a. ricketti* と *L. a. ruborularis* は亜種として分けるべきが妥当と思われる。

*Mesia argentauris rubrogularis* Kinnear, 1925, Bull. Brit. Orn. Cl. 45:75 ((標本採集地；ベトナム北部 Ngoi-Tio)

生態 通常標高 1000m ほどの平原、および丘陵地域の常緑広葉樹林、灌木叢、竹林に群棲する。活発に行動するが遠くへは飛ばない。常に樹間の枝を飛び回り、樹上で静かにしていることが少ない。常に樹林の下層部や地面で採食するが、竹林や高木の上層部でも行動する。よく他のガビチョウ属と混群をつくる。

Stanford et Mayr (1941) と鄭作新等 (1966) によると、本種の食性は雑多で、昆虫が多く、たとえばゾウムシ、テントウムシ、鱗翅目幼虫、アリ等、および植物の種子、たとえばトウモロコシ、イチゴ、ピロウドイチゴ、雑草の種子、その他ガジュマルなど、植物の果実等を食す。

*Mesia argentauris* Hodgson., 1837, Ind. Rev. 2:88 ((標本採集地：ネパール)。

*Mesia argentauris*, Baker, 1922, 1:354-355.

*Leiothrix argentauris*, Deignan (in Mayr et Paynter), 1964, 381-383; Ali et Ripley, 1972, 7:65-67; 鄭作新, 1976, 656-657.

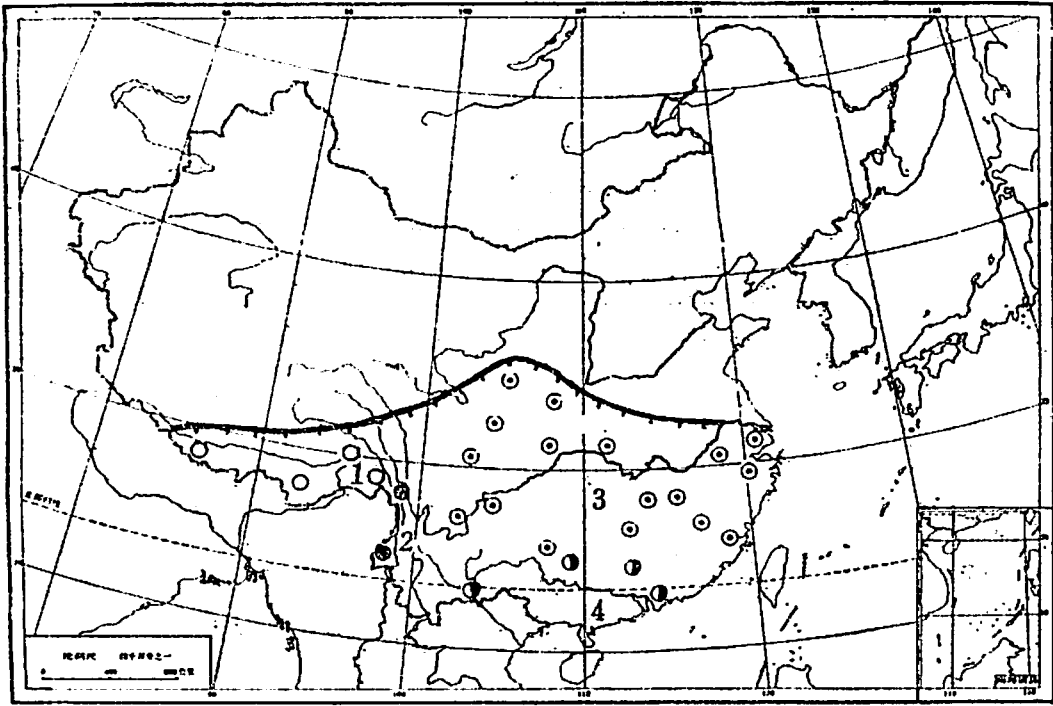
67. ソウシチョウ *Leiothrix lutes* (Scopoli 紅嘴相思鳥)

英名：Red-billed leiothrix；商品名“Peking robin”。

地理的分布 西はチベットの昌都地域から東は東南沿海各地まで、北は甘肅省南部から、雲南、江西、広東の各省。国外ではインド、ネパール、シッキム、ブータン、バングラデシュ、ミャンマー等に分布する。

識別特徴 体型のサイズはゴシキソウシチョウに似ており、体上面は頭から上尾筒まで暗灰緑色、頭頂は比較的緑色が濃い。両翼に朱赤色の翼斑がある。頬から喉は黄色、胸は橙黄色、腹部は淡い白色、下尾筒は浅い黄色。

形態 (基亜種の標本による) 雄成鳥：体上面のほとんどが暗灰緑色で、前額、頭頂、上背部はやや緑色が濃い。小翼羽は黄白色。風切羽は暗褐色で、内側に向かって黒褐色となる。初列風切外弁の外縁は黄色、第3羽のもとから1/3の部分が朱赤色で、これが鮮明な翼斑を構成している。次列風切羽の外弁基部はオリーブ灰色、第1羽から第4羽あるいは第5羽の中程までの縁が橙黄色、先2/3の部分は周縁が漆黒である。尾は先端がM形で、光沢のある黒色。眼先と眼周は浅い黄色。耳羽は浅い灰色で、前部はわずかに銀白色を帯びる。頬はかすかに黒い。顎と上喉



分布図51 ソウシチヨウ *Leiothrix lutea*

1. *L. l. calipyga* ○ 2. *L. l. yunnanensis* ● 3. *L. l. lutea* ○ 4. *L. l. kwangtungensis* ●

は鮮黄色。下喉と胸は深い橙黄色。腹部は淡い白色で、両脇は浅い黄灰色。下尾筒は浅い黄色。  
雌成鳥と雄は似ているが、翼斑が雄では朱赤色のところ、雌では橙黄色になっており、その他羽色が雄に比較してやや淡い。

虹彩は淡赤褐色。嘴は雌雄とも珊瑚様の赤色。跗蹠と指は黄褐色。

各部位の測定

性別	体重g	全長mm	嘴峰mm	翼長mm	尾長mm	跗蹠mm
♂(10)	20~23	129~154	11~14	63~74	50~64	23~27
♀(10)	20~24	127~150	11~13	60~70	50~58	23~27

亜種分化 Deignan(in Mayr et Paynter, 1964)によると、本種には7つの亜種が有るとしている。Ali et Ripley(1972)は *L. l. luteola* と *L. l. calipyga* の両亜種を合併し、計6亜種としている。鄭作新(1976)は *L. l. astleyi* と *L. l. lutea* も同物異名であるとし、したがって5亜種ととしており、そのうち *L. l. kunaiensis* を除く4亜種が我が国に分布するとしている。

亜種検索

- 1. 翼斑橙黄色 ..... 2
- 翼斑朱赤色 ..... 3
- 2. 初列風切内側外弁の縁が浅い橙黄色 ..... 雲南亜種 *L. l. yunnanensis*
- 橙黄色翼斑の間に小片の朱赤色。初列風切内側外弁の縁が朱赤色 ..... 昌都亜種 *L. l. calipyga*
- 3. 胸部と腹部の中央が濃い橙赤色 ..... 広東亜種 *L. l. kwangtungensis*
- 胸部と腹部の中央が淡い帯黄橙赤色 ..... 基亜種 *L. l. lutea*

(1) 昌都亜種 *Leiothrix lutea calipyga* (Hodgson)

チベット東南部の波密と察隅等の地域で見られ、国外ではネパール、シッキム、ブータン、インドのアッサム、バングラデシュおよびミャンマー等に分布する。

基亜種とよく似ているが、翼斑の橙色が主で朱赤色の部分が少ない。初列風切の内側外弁の縁は朱赤色を呈し、第9～10枚目はとりわけ赤色が顕著である。一部の個体では初列風切内側外弁の縁中程が黒色を呈するものがあり、雲南亜種のそれと似ていが、本亜種の黒色部分は個体間で長さ、大きさが異り、雲南亜種の黒色部分はより一致している。頭頂はオリーブ黄色でややうすく灰色がかっており、雲南亜種頭頂のオリーブ黄色と区別することができる。

## 各部の測定

性別	体重 g	全長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm
♂(10)	20～23	138～152	11～13	64～69	59～63	24～27
♀(7)	20～24	135～150	11～12	65～68	57～64	21～26

**分類考察** チベット波密地域と察隅地域で採取されて標本(♂5, ♀1) 初列風切内側外弁の縁中程の黒色が、雲南亜種(*L. l. yunnanensis*)の黒色部分と似ていることにより、李徳浩等(1978)は野貢(波密地区)および洞穹(察隅地区)で採取した標本を鑑定し、雲南亜種(*L. l. yunnanensis*)とした。昆明動物研究所(1980)では雲南省西北部の貢山の“東斜面で採取された73655, 73386, 73476号標本により、初列風切外縁の羽色は*L. l. lutea*と似ており、初列風切内側の細い黒色の線が中断しているのも*L. l. lutea*と*L. l. yunnanensis*の混交型”としている、しかし、基亜種(*L. l. lutea*)は雲南省東北部でわずかに見られることから、雲南省西部に分布する雲南亜種(*L. l. yunnanensis*)とこの二者が混交することは不可能と思われる。貢山東斜面の標本を見るに、本亜種と雲南亜種との混交型とすることがより適合している。

本亜種の一部の標本では、初列風切内側外弁のふち中ほどが黒色を呈しているが(黒色型、鄭作新等, 1983, 243-249), しかし、別の標本ではこれに相当する部分が黒色でない(この羽縁が赤色—赤色型、鄭作新等, 1983, 248)。この二つの羽色型が同一生息環境から同時に採取され、彼らの初列風切外弁のふちが朱赤色を呈し、ことに第9～10枚目が顕著であり、体型の大きさにも差がない。したがって、我々はチベット東南部の標本は当然本種に属するものと認める。

*Rahila calipyga* Hodgson, 1838, Ind. Rev: 88 (標本採集地: ネパール)。

*Liiothrix lutea luteola* Koelz, 1952, Journ. Zool. Soc, India 4:39 (標本採集地: インドアッサム)。

(2) 雲南亜種 *Leiothrix lutea yunnanensis* Rothschild

雲南省西部に分布し、国外ではミャンマー東北部で見られる。

*L. l. calipyga*とよく似ている。頭頂のオリーブ黄色は昌都亜種に比較してやや薄い黄色。初列風切内側外弁の縁の中ほどが黒色で、どの鳥も、黒色部分の大きさや、長さはほとんど変わらず、ほとんどの第7～10枚の黒色は途中で切れている(18標本が第7～10枚の4枚が、6標本が第6～10枚の5枚が黒色)。初列風切第9～10の2枚の外弁の縁が浅い橙黄色を呈す。

## 各部の測定

性別	体重 g	全長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm
♂(10)	21～25	139～160	11～13	67～76	56～68	24～29
♀(10)	21～26	130～160	11～12	65～73	55～65	25～28

**分類考察** “初級風切内側外弁の中ほどが黒色を呈す”，これまでの学者は全て本亜種の独

特な特徴と、古くからの文献中に、昌都亜種の一部個体の、相当する部分に黒色が見られることから（詳しくは昌都亜種分類考察を参照）、昌都亜種と本亜種の識別上に、若干の混乱があることを認め、したがって、この特徴によって決めることはできず、当然本亜種と昌都亜種の識別特徴は全面的に考慮する必要がある。

*Leiothrix luteus yunnanensis* Rothschild, 1921, Nov, Zool, 28:36 (標本採集地：雲南省西北部怒江と龍川江間の山地)

### (3) 基亜種 *Leiothrix lutea lutea* (Scopoli)

我が国では甘肅省、陝西省南部、四川省、雲南省東部、貴州省、湖北省、湖南省、安徽省南部、広西省、浙江省、福建省等で見られ、国外には分布しない。

形態は種の形態説明で、各部の測定は前項を参照。

分類考察 *Leiothrix astleyi* は Delacour, 1921 年発表の新種で、古い文献の記載で、サンプル種もわずか一对、採集地も不明の飼い鳥による発表で、この鳥の羽色の説明も亜種の識別の根拠とするものはない。したがって、鄭作新 (1976) は *L. astleyi* を *L. l. lutea* の同物異名とした。

*Sylvia lutea* Scopoli, 1786, Del. Flor. et Faun. Insubr. 2:96 (標本採集地：安徽省)。

*Leiothrix astleyi* Delacour, 1921, Bull. Brit. Orn. Cl. 41:115 (標本採集地：中国)。

### (4) 広東亜種 *Leiothrix lutea kwangtungensis* Stresemann

雲南省東南部、広西省、広東省等で見られ、国外では北部湾(トンキン湾)周辺に分布する。

本亜種と基亜種はきわめて似ておるが、胸部と腹部中央が濃い橙赤色で、基亜種はこの部分が淡い橙色を帯びた黄色である。本亜種の頭頂はオリーブ橙色が多くて、オリーブ緑色が比較的少ない、基亜種の頭頂はオリーブ緑色が比較的濃くて、背部の灰緑色は、基亜種では緑色が少なく、灰色が多い。

各部の測定

性別	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm
♂(8)	11~14	64~74	57~59	23~24
♀(4)	11~13	68~72	55~58	23~25

分類考察 湖南省採取の標本中一部の標本に本亜種の、相当する部分の羽色がほぼ似ているものがあり、この標本は基亜種と本亜種の交雑したものとして当然考慮すべきである。

*Leiothrix lutea kwangtungensis* Stresemann. 1923. Journ. Orn. 71:364(標本採集地：広東省韶関)。

生態 この鳥は標高 900~3300m の間の山地を、季節に応じて垂直移動を行う。彼らは常に群れを作って、常緑広葉樹、竹林、あるいは灌木叢で行動し、林縁部で見るとは少ない。明け方の渓谷沿い灌木叢でよく行動する。日の出とともに渓谷を離れ、より高い斜面へと去っていく。樹林の下層部で採食し、ときには中層部、高層部でも採食する。繁殖期は対で行動し、雌雄は影のように離れない。雄はこの期間鳴き声に変化に富み、鳴き声が耳に心地よく、灌木の頂点で翼を震わせて、体をいからせて、声を転がすように囀る。

1965 年 5 月 23 日、雲南省騰冲大塘の斜面灌木叢で採取した一巣は、外層が藓苔、枯れ草、枯葉などで構成され、内層はシュロ糸が使われていた。巣は地上から 1.3m の高さであり、外径 110mm、内径 50mm、深さ 60mm であった。巣の中には 3 卵があり、卵殻は淡い藍色で、くすんだ赤い斑点がある。1979 年 7 月 24 日、貴州省綏陽県の常緑広葉樹林林縁部の竹林で採取した 1 巣は地上 1.2m の竹枝上にあり、外層は細い草の根と藓苔で編むように作られ、中層は竹

の葉、内層はひげ根が吸かれ、巢は藤蔓の絡んだ竹の枝上にあり、楕円形で外径96×85mm、内径76×66mm、巢の高さ64mm、深さ56mmで、3卵があり、白色で、淡い紫色の斑点があった。卵重2.4~2.6g、大きさは(20.2×21.7)×16.3mm。

食性は膜翅目幼虫、双翅目長脚蚊\*および虫卵、シロアリ、その他の昆虫が主で、他に大量の植物類が有る、たとえばイチゴ *Fragaria ananassa*、ナガバモミジイチゴ *Rubus palumatus*、の種子、漿果等を食している。

\*長脚蚊；種を確認することができなかった。

**経済的意義** ソウシチョウ属の鳥類は賢く、たくましい、鳴き声も澄んで美しく、変化が多く心地よく聞こえる。羽色も美しく、観賞用飼い鳥として世界に有名である。飼育条件下でも、この鳥は活動的で、少しも一点に留まることを知らず、上から下、下から上へと常に飛び回っている。ただ、囀っている時と、雌雄が毛繕いをしている時だけ一点に留まっている。したがって、飼い鳥として人々から喜ばれ、毎年輸出量が非常に多い。この鳥の食性から農業上有益であり、飼育繁殖したもののみを輸出することを求める。

*Syvia lutea* Scopoli, 1786, Del. Flor. et Faun. Insubr. 2:96(標本採集地：安徽省)。

*Leiothrix lutea*, Baker, 1922, 1: 327-329.

*Leiothrix lutea* Deignan (in Mayr et Paynter), 1964, 383-384; Ali et Ripley, 1972, 7: 67-69;

鄭作新, 1976, 657-658.